

母校応援報告

男子第66回全国高等学校 駅伝競走大会を応援して!!

第66回男子全国高校駅伝が平成27年12月20日(日)京都市の西京極陸上競技場を発着するコース(7区間42.195km)で開催されました。今回は京都開催50年記念大会で、都道府県代表47校に加え、各地区代表11校、開催地枠1校の59校が参加しました。結果、世羅高校(広島)が2時間1分18秒のタイムで優勝しました。圧倒的な強さでした。母校・秋田工業は全国強豪の中、健闘しましたが2時間6分0秒のタイムで20位でした。

東京秋工会から7名(生駒・辻村・地主・小野・三平・佐々木進・遠藤)が応援に行ってきました。

19日(土)昼前、京都駅に集合。昼食後、晴明神社、京都御所を散策しました。夕方宿泊先の東山荘に到着。17時30分より選手の宿舎である新門荘において激励会があり参加しました。近畿秋田県人会・京都秋田県人会・奈良秋田県人会・秋田県大阪事務所・秋工関西支部・東京秋工会の代表が、激励の挨拶をしました。西校長の「自分の殻を破る戦いを」との激励挨拶、大友監督の力強い挨拶の後、選手紹介と選手一人ひとりの力強い決意表明がありました。それを伺い胸が熱くなり、明日の健闘を祈りました。20日(日)朝6時半過ぎ、宿泊先の東山荘近くの清水寺に必勝祈願をした後、境内を1時間程散策しました。朝食後、西京極陸上競技場に向かいました。競技場では秋工関西支部の皆さんがスタンドに到着しており、応援の準備をしておりました。

天気は曇一つない青い空が広がり、絶好のコンディションでした。競技場のスタンドは既に各校を応援する人で一杯、プラスバンド、チアリーダーの応援で盛り上がっていました。また出場校の幟(のぼり)が所狭しと揚げられていました。母校・秋田工業のコバルトブルーの幟も風になびいており、感激しました。会場の雰囲気は一瞬にして40数年前の高校時代を思い出させ、心が高揚してきました。当時の高校総体のスローガン「若さの躍動 魅力の総体」が頭に浮かびました。選手が若さの躍動なら応援する人もまさに若さの躍動でした。

秋田工業のなまはげ2匹(辻村氏、小野氏)はスタンドに陣取り、観客の注目を浴びながら応援しました。



スタンドの応援

10時20分女子のスタートに続き、12時30分に男子がスタートしました。トラックを1周した後、都大路に駆け出していきました。東京秋工会は選手がスタートする前に、競技場で応援するなまはげ2匹を残し、第1区走者(松尾 淳之介)応援のため、地下鉄で第1中継所前、1区沿道に向かいました。

第1区沿道には多くの人が集まっていました。私は持参したタブレットでテレビ中継を見ながら、選手の到着を待っていました。母校・秋田工業はスタートから15分位までは先頭グループの一団に入っていました。選手が通過する時は大声援を送りました。第1中継所では23位でした。



1区 松尾選手の力走

次に第4区走者(安藤 駿)の応援のため、すぐに地下鉄で第4区に移動しました。安藤選手は22位で第5区にタスキを渡しました。最後は第7区最終ランナー(石垣 陽介)応援です。急いでタクシーに乗り、ゴール地点の競技場に戻りました。石垣選手の力走により、順位を4つ上げ、20位(2時間6分0秒)でゴールしました。



最終ランナー(7区)
石垣選手の力走

出場選手は次の通りです。

第1区	松尾 淳之介 (3年)
第2区	高橋 響 (2年)
第3区	齋藤 椋 (2年)
第4区	安藤 駿 (3年)
第5区	森林 純太 (3年)
第6区	佐藤 慎太郎 (2年)
第7区	石垣 陽介 (3年)

競技終了後、競技場近くの中華料理店「いっせん亭」で西校長、秋田県人会、秋工関西支部の皆様との懇親会に参加しました。選手の健闘を称え、大いに交流を深めることができました。また交流する中で郷土の絆、同窓の絆を強く感じました。



終了後の懇親会

最後に秋田県人会並びに秋工関西支部の皆様には大変お世話になり、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

◆ 記事

遠藤 久志 (昭和43年電気科卒)
東京秋工会 幹事

安全・快適な生活空間の創造に尽くします。

道路建設コンサルタント

船木技術士事務所

所長 船木 整 (昭和43年土木科卒)

技術士(建設部門)

(公社)日本技術士会会員 (公社)土木学会会員

〒260-0042 千葉県千葉市中央区椿森2-1-3

TEL/FAX : 043-206-1728 E-Mail : hitoshi.f@cnc.jp